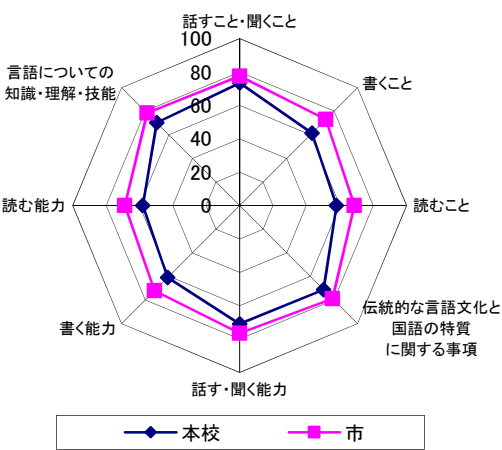


宇都宮市立瑞穂野中学校 第3学年【国語】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	話すこと・聞くこと	73.4	77.6	76.3
	書くこと	61.4	73.0	56.1
	読むこと	58.0	68.8	63.9
	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	71.2	78.8	71.6
観点別	話す・聞く能力	70.8	76.5	75.4
	書く能力	61.0	72.0	58.1
	読む能力	58.0	68.8	63.9
	言語についての知識・理解・技能	70.3	78.4	70.9

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

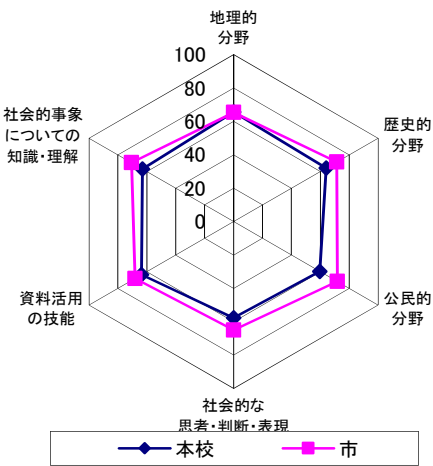
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
話すこと・聞くこと	・宇都宮市よりやや低い正答率である。 ○話の内容を正確に聞き取る問題は、正答率が8割を超えている。 ●話し手の意見に対し、自分の考えを持つことの正答率が低い。	・様々な場面を設定した言語活動を多く取り入れ、相手や場面を意識した話し方、聞き方ができるよう、工夫した授業展開を行う。授業の中で、聞き取りテストを定期的 に実施していることは成果として表れているので、今後も継続していく。
書くこと	・宇都宮市より低い正答率である。 ○自分の立場を明確に書くことに関する問題は8割以上の正答率であった。 ●指定された段落構成で文章を書く出題では、正答率が低く、学力が定着していない。	・書くことに抵抗がある生徒を減らしていくため、書く機会を増やしていく。少ない分量の文章を書くことから訓練し、長文がしっかりと書ける力を育成する。また、構成メモ等で段落構成を意識させたあと、文章を書かせていく。また、読むことの授業とも結びつけて、文章の構成を意識させていく。
読むこと	・宇都宮市より低い正答率である。 ●文章の構成や展開を問う問題での正答率が低い。また、文学的文章の表現の特徴をとらえる問題の正答率が5割を切っている。登場人物の心情をとらえる問題では、活用的な問題の正答率は低い。	・文脈に即して内容を読み取るために、段落の役割を意識させたり、段落ごとの要点をまとめさせたりする活動を取り入れる。また、読み取るための基礎となる語彙力を高めさせるために、辞書の活用を習慣化させていきたい。人物の心情を読み取る際に、裏付けとなる、言葉や行動などのポイントを明確に指導することで力の育成を目指す。
伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	・宇都宮市より低い正答率である。 ○歴史的仮名遣いを現代仮名遣いに直す問題は9割以上の正答率であった。 ●漢字の読み書きや、対義語類義語に関する出題は、問題により正答率に大きな差があった。文法に関する出題は正答率が低く、学力が定着していない。	・授業の中で漢字の小テストを定期的 に実施したり、漢字を学習するための時間を意識的に増やしていく。宿題等も含め、生徒自らが、家庭でも継続して漢字の練習に取り組む姿勢を育成していく。文法の授業が終わってしまつと、その後の授業の中で文法に触れることが少なくなってしまうので、知識が定着せず、忘れてしまう生徒が多い。そこで復習問題を解く機会を設定する。また、知識があいまいな生徒への個別の援助を行う。

宇都宮市立瑞穂野中学校 第3学年【社会】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	地理的分野	65.6	65.4	52.7
	歴史的分野	64.1	71.3	64.1
	公民的分野	59.6	71.8	68.7
観点別	社会的な思考・判断・表現	57.7	64.9	53.5
	資料活用 of 技能	63.7	68.0	57.3
	社会的事象についての知識・理解	63.0	70.6	64.5

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。
(社会では本市独自の設問が含まれるため、参考値は全設問に対応した値ではない。)



★指導の工夫と改善

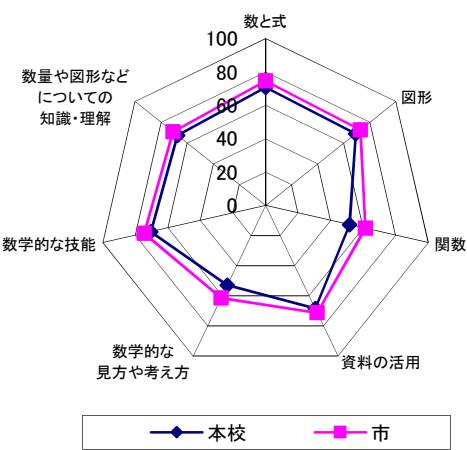
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
地理的分野	・正答率は宇都宮市とほぼ同程度である。 ○緯度・経度を読み取ったり、地図上の位置を把握したりする問題は得点率が高い。 ●関係性、因果性を文章で記述して答える問題は、大きく得点率が落ちる。	○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの ・社会的な思考・判断や資料活用 of 技能では、市より劣るものの知識・理解よりは開きが少ない。これは授業で多くの資料を比較したり、それをもとに考えたりする展開が功をなしていると考えられる。あきらめずに課題追究的な展開を試みたい。
歴史的分野	・参考値と同程度で宇都宮市より低い正答率である。 ○資料をもとに考察して理由を考える問題や、歴史的事象の目的を答える問題では、記述式であるにもかかわらず、正答率が高い。 ●近代以降の歴史の選択問題は定着率が低い。	・社会的な思考・判断や資料活用 of 技能では、市より劣るものの知識・理解よりは開きが少ない。テストの度に全員に単語カードを作らせ、重要語句を覚えさせてきたにもかかわらず、知識理解の観点が高いことには、より丁寧な分析が必要である。一問一答の問題ではよく答えられているあたりをヒントに定着度を上げる工夫をしていきたい。
公民的分野	・宇都宮市や参考値より低い正答率である。 ●「人間の尊重と日本国憲法」については、比較的定着度が高かったが、「現代の民主政治と社会」に関する理解が不十分である。	・テストの度に単語カードを作らせており、事前の一問一答の問題ではよく答えられているので、それらの知識が関係性・因果性を持った理解になっていないと考える。新聞などのメディア資料を活用したり、時事問題を取り上げて自分ならどうすると考える授業展開を、より積極的に導入していきたい。

宇都宮市立瑞穂野中学校 第3学年【数学】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	数と式	70.8	74.7	72.4
	図形	69.1	72.7	62.3
	関数	51.6	61.3	52.1
	資料の活用	68.4	71.3	55.6
観点別	数学的な見方や考え方	53.0	61.4	45.2
	数学的な技能	70.5	74.6	69.7
	数量や図形などについての知識・理解	67.4	70.8	61.6

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

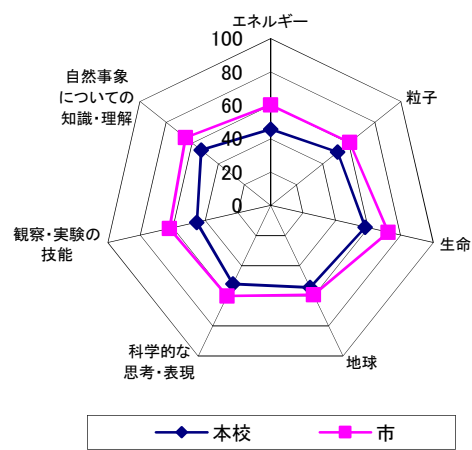
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
数と式	・宇都宮市よりやや低い正答率である。 ○平方根についての問題については、市の正答率を上回っている。 ●かっこを含む正負の数の減法についての正答率が市正答率よりも10ポイント下回った。	基礎的な計算に対しての理解が不十分な生徒が若干見られた。一斉授業だけではなく、能力に応じた授業展開をする工夫が不可欠である。特に、苦手意識のある生徒に対しては基礎的な問題を繰り返し解かせ、基礎力の定着を図る必要がある。
図形	・宇都宮市よりやや低い正答率である。 ○ほぼすべてのねらいで市の正答率に近い。 ●三角形の合同を証明する問題では市の正答率よりもやや下回った。	図形に対する基礎的な理解力が身についてきている。基礎的なことだけでなく、多角的な視点から図形について考えられるような指導を心がけたい。
関数	・宇都宮市より低い正答率である。 ●ほぼすべてのねらいで市の正答率よりも下回っている。特に1次関数の式を求める、関数 $y=ax^2$ の座標を求める問題の正答率が市よりも10ポイント以上も下回っている。	表、式、グラフのつながりを整理させ、基礎から見直す必要がある。その上で、グラフから様々なことを読み取る演習を繰り返し行い、知識や技能の定着を図りたい。
資料の活用	・宇都宮市とほぼ同等の正答率である。 ○すべてのねらいで市とほぼ同等の正答率であった。	資料を読み取る力が身についてきている。しかし、判断の根拠を説明する力がやや低いため、自分の考えを他人に伝える機会を増やすアクティブラーニングを積極的に行っていききたい。

宇都宮市立瑞穂野中学校 第3学年【理科】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	エネルギー	45.7	60.2	57.6
	粒子	51.4	60.6	55.1
	生命	58.1	72.3	63.6
	地球	54.5	59.3	50.4
観点別	科学的な思考・表現	52.1	60.2	57.3
	観察・実験の技能	45.3	62.1	57.5
	自然事象についての知識・理解	53.2	65.2	57.8

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

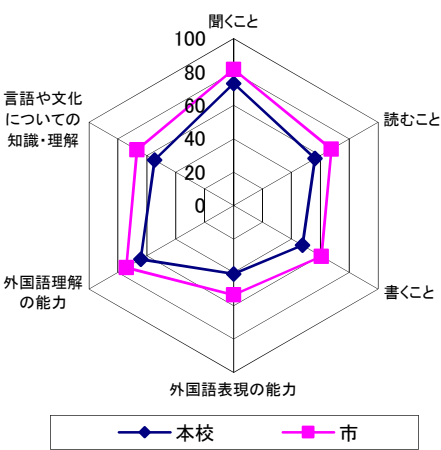
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
エネルギー	・宇都宮市よりかなり低い正答率である。 ●電流と磁界の短文問題や物体のいろいろ運動の問題に対して、市の正答率の平均より10ポイント以上低い結果となっている。	・授業の中で、科学的な思考・表現を意図した、設問などを多くしていきたい。また、基礎、基本の定着をはかるために、授業のはじめなどに力や圧力や電流と磁界の内容、運動(速さなど)などの問題練習を繰り返し解く時間を確保していきたい。
粒子	・宇都宮市より低い正答率である。 ●気体の発生と性質では、記述式の問題で、10ポイント以上低い結果となっている。 ○酸・アルカリとイオンの塩ができることを答える記述式問題では、市の正答率とほぼ同等であった。	・2年の化学変化の単元では、知識・理解の観点の問題が十分に定着が図られていなかったため、知識・理解が定着できるように指導の工夫をしていきたい。また、粒子の領域では、目に見えないため、可視化を図るために、モデルの概念やICTなどの活用を努めてきたい。
生命	・宇都宮市よりかなり低い正答率である。 ●生物と細胞や遺伝の規則性と遺伝子の問題では、10ポイント以上低い結果となっていた。事象に対しての結果についてが、正しく覚えられていないため、正答率が低い結果となった。	・すべての学年において、主たる観点の知識・理解の問題で十分な定着が図られていない。授業の中で、基礎・基本的な用語や問題を繰り返し解くなどの反復学習を行うなど、指導の工夫などを図ることにより、定着を図ってきたい。
地球	・宇都宮市より低い正答率である。 ○4つの領域の中で一番高い結果となった。雲のでき方と水蒸気の雲のでき方の正しいモデルを答える問題では、市の正答率を上回った。 ●地層の重なるの示相化石についての理解を問う担当問題の正答率が10ポイント以上低い結果となっている。	・1, 2年生の内容についての内容が出題されているが、十分定着していない。そのため、3年生の授業の中で、関連する内容の学習のときに、復習する時間を随時設けるなどして、学習内容の定着を図ってきたい。

宇都宮市立瑞穂野中学校 第3学年【英語】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	聞くこと	73.2	81.7	75.3
	読むこと	56.3	67.7	62.9
	書くこと	47.6	60.7	52.8
観点別	外国語表現の能力	41.0	53.5	44.8
	外国語理解の能力	64.3	74.2	67.8
	言語や文化についての知識・理解	54.6	66.8	63.0

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

領域	本年度の状況	今後の指導の重点
聞くこと	・宇都宮市より低い正答率である。 ● 特に、質問に対して、適切な答えを選ぶ問題の正答率は市の平均より5ポイント以上低い結果となり、まとまった内容を正確に聞き取る力が弱いことが分かった。	・授業の中で、リスニングの機会を増やしていきたい。教科書の問題に取り組ませるだけでなく、英語の使用量を増やし、インプット強化に努める。また、まとまりのある英文を聞いて、その内容から適切な答えを選択する訓練も必要である。
読むこと	・宇都宮市より低い正答率である。 ● 対話文を読んで答える問題は得意として結果となったが、説明文などの長文を理解して内容を読み取る問題に苦手意識を持っている結果となった。	・ある程度のまとまりのある長文でも、対話文だけでなく、説明文や物語文を読む機会多く増やし、読むことに少しずつ抵抗をなくし、慣れ親しませることから取り組んでいきたい。
書くこと	・宇都宮市よりかなり低い正答率である。 ●特に、自己表現の部分において、自分の意見や気持ちを文章に表す問題の正答率が低い結果となった。	・授業の中でも自己表現活動の時間を多く確保し、書く活動も今後継続して取り組ませる必要がある。また、自分の意見や考えをまとめた英文で書けるような取り組みもしていき、書くことへの抵抗感を減らせる工夫をしていきたい。